高原にて

堀辰雄

青空文庫

昨日の夕方、輕井澤から中山道を自動車で沓掛（くつかけ）、古宿（ふるじゆく）、借宿（かりやど）、それから追分（おひわけ）と、私の滯在してゐる村まで歸つてきたが、その古宿と借宿との間には高原のまん中にぽつんぽつんと半ばこはれかかつた氷室がいくつも立つてゐて、丁度いまそのあたり一面に蕎麥の白い花が咲きみだれてゐて、何とも云へず綺麗だつた。この地方特有らしい、その氷室の建物が大へん芥川さんのお氣に入り、かういふ高原にああいふ恰好の別莊を立てたいなどと云つてゐられたので、私はいつとはなしにその前を通る度にそれを一種の愛著をもつて眺めるやうになつてゐたのである。

芥川さんが輕井澤にいらしつたのは確か大正十三年と大正十四年で、十三年の夏は私は金澤の室生さんのところに長く滯在した歸りにちよつと此處に寄つたきりだつたが、翌年には私もずつと滯在し、毎日のやうにお會ひしてゐた。その十四年の夏もなんだか雨が多くて、ちやうど今年のやうな不順な陽氣であつた。それでも私はよく芥川さんのお伴をして峠や近所の古驛などを見てまはつた。ことにいま私のゐる追分宿などが、すつかり寂れ切つたなりに、昔の面影をそつくりそのまま殘してゐるので一番お氣に入られてゐたやうであつた。輕井澤のやうなハイカラなところも一方ではお好きらしかつたが……

或る明るい眞晝、私達が自動車でこのへんまで來かかると、硝子にしきりに何か青いものがぶつかつてくるので、何だらうと思つてよく見ると、それが無數の、瑠璃色の翅をした小さな

蝶だつたりしたこともあつた、——そんなことを私は昨日自動車の中で一人でひよつくり思ひ出してゐた。

又、夏の末になつてから、外人に賣りつけに立派な洋犬を何匹もつれてきてゐた犬屋が、輕井澤ホテルで賣殘りの犬のオークションをやつたことがあつた。有名な犬嫌ひの芥川さんも私を連れてそれを見に行かれた。そのとき私は芥川さんの手帖にその犬の名前だの値段だのをそばから書かせられた。數年前、全集「別冊」編纂のため、それらの手帖を整理してゐるうちにその箇處に出合ひ、その私自身の書いたものまでも寫して置くべきかどうかにかなり迷つたことがある。そんな箇處の近くには、又、芥川さんが當時思ひつかれるそばから私に話して下さつたコントのやうなもの、——たとへば八百屋の小僧が西洋人の落して行つたパイプを拾つて煙草の代りに玉蜀黍の毛をそれにつめて吸つてゐると云つたやうな話の心覺えのやうなものまでが見つけられたのだつた。

數日前、千ヶ瀧にゐる友人が私のところに來ての話に、淺間山麓一帶がその氣候とか植物の分布狀態から見るとスカンヂナヴィア地方に酷似してゐるといふ話が出て、それから話がスカンヂナヴィアの文學のことに移つて行つたが、私はそのときふと、芥川さんもその北方の文學

をかなり愛讀せられてゐたらしいこと——いままで私があんまり氣にもとめてゐなかつたそんな一面に、はじめて氣がついた。芥川さんはストリンドベルク、イプセンは勿論のこと、私の知つてゐる限りでも、ビヨルンソン、ラゲルレフ、ハムスンなどの作品は大抵讀破せられてゐたのである。いまでも一部の人達に愛せられてゐるキイランドなどもお好きだつたらうと思はれる。

最近私はリルケの「マルテ・ラウリツツ・ブリツゲの手記」といふ小説を非常に興味深く讀み出してゐるが、それはスカンヂナヴィアの文學——ことにキエルケゴオルやヤコブセンの作品に傾倒してゐたリルケのさう云ふ一面の最もよく現はれたものと云つてゐる評家がある位であるが、その小説の主人公であるデンマアクの若い詩人が巴里で死を前にしながら書きつづつた、その凄慘な感じのうちに一脈の云ひしれぬ sweetness を湛へた手記を讀んでゐるうち、私はしばしば芥川さんの「齒車」を思ひ浮べてゐた。しかし、私はさういふ相似が何處から來るものか、今まであまり考へなかつたのである。私はいつかこの二つのもののもつスカンヂナヴィア的要素をもつとよく見つめてみたいと云ふ氣がしてゐる。

「齒車」の最後の章にストリンドベルクと同名異人の瑞典人のことがちよつと出てくる。それとどうも同人らしい六十がらみの老外人が一人、此頃よく輕井澤の町をいかにも陰慘な身なりで、ひどい猫背をしながらぶらついてゐる。何處かのドイツ語の教師ださうだが、シュテルンベルヒ（Sternberg）といふ名前である。もしかしたらそれを芥川さんはストリンドベルクと聞

きまちがはれたのではあるまいか。その老外人も被害妄想狂かどうかは分からないが、口笛がひどく嫌ひだと見えて、子供なんぞが口笛を吹いてゐるといきなり近づいていつてそれを無理に止めさせたりしてゐるところを、私はこの夏も二三度見かけたことがある。

青空文庫情報

底本：「堀辰雄作品集第四巻」筑摩書房
　　1982（昭和57）年8月30日初版第1刷発行
初出：「芥川龍之介全集　第一巻月報」岩波書店
　　1934（昭和9）年10月15日
入力：tatsuki
校正：染川隆俊
2011年3月9日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

高原にて

堀辰雄

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/